

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全3枚)

氏 名 荒 谷 啓 一

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
1	<p>(1) 山中温泉地区会館について 今後の整備方針について</p> <p>今般の地震の影響により苦渋の決断で、山中温泉地区会館を併用する山中温泉文化会館の一般利用が停止され、山中温泉地区まちづくり推進協議会の事務局が加賀市立山中図書館2階に先月、仮移転した。山中温泉文化会館は耐震化されておらず、市内21地区会館の中で唯一、山中温泉地区会館だけが加賀市指定緊急避難場所から外れていることなどに対し、これまで、議会でも議論がなされたが、他の施設との複合化、コンパクト化に対する市の基本的な方向性について、地元では多種多様な意見があり、実施に至る状況にならなかった経緯がある。</p> <p>その後、市政懇談会で近年、要望が続いているように、まちづくり推進協議会や地域団体とのコンパクトなコミュニティ施設としての整備について、住民の合意形成はなされている。地震に端を発した事柄だけに、指定緊急避難場所（防災備品保管場所）としての新たな山中温泉地区会館の整備が急務と考えるが、今後の方針について所見を問う。</p>	
	<p>(2) 代替施設の使用について</p> <p>山中温泉地区17町内会には各町民会館がなく、山中温泉文化会館が総合的な機能を果たしており、各種団体やコミュニティー、サークルなど地域の活動拠点であった。加賀市立山中図書館2階では規模が小さく、施設の性質上、開館日時やセキュリティ面で夜間の使用規制などがあるため、近隣地区会館や山中総合福祉センター、山中座などの使用ニーズが増加している。</p> <p>しかし、それら代替施設では開館日時や指定管理による使用目的など、山中温泉文化会館のように使い勝手がよくない。このような現状を踏まえ、代替施設の使用や料金などについて、柔軟な調整が必要と考えるが、所見を問う。</p>	

発言通告書要旨 (2枚目/全3枚)

氏名 荒谷 啓一

発言番号	発言事項及び発言要旨	備考
2	<p>山中児童センターについて</p> <p>山中児童センターも山中温泉文化会館同様、仮移転が予定されており現在、山中児童センター自身の指定管理者である加賀市社会福祉協議会所有の山中総合福祉センターを仮移転先として、調整が進められていると聞く。先日のミニフェスティバルでは避難する被災者も招待し、子供たちとまちづくり推進協議会や地域関係者、民生委員・児童委員の方々ら約180人が、山中節や琴の伝統芸能発表等を行いながら施設の仮移転を惜しんだが、新年度の日程が立てられないのが現状である。山中児童センターは市の指定管理施設であり、現場との連携を図りながら、まちづくり推進協議会の事務局同様、市が主導して仮移転先を決定すべきである。</p> <p>当初予算最重要事業のトップに「子育て支援の更なる充実」、学校教育ビジョン推進事業に「誰一人取り残さないプロジェクト」、「地域と一緒にプロジェクト」が掲げられる中、様々な事情を抱える子供たちの居場所づくりの場として、重要な役割を持つ山中児童センターの仮移転先の早期決定と今後の施設整備方針について、所見を問う。</p>	
3	<p>山中温泉支所の廃止、山中温泉文化会館の機能停止後について</p> <p>冬期間の各町内会などへの小型除雪機(WA30)の貸出し業務は、山中温泉支所と山中温泉文化会館以外に、消防本部山中分署、山代分署、片山津分署の3分署と市役所で行われていた。実績(土日含む午前・午後で各1件)は、昨シーズン(令和4年度)が全体で延べ134件中、山中温泉支所、山中温泉文化会館が93件(約69%)。今シーズン(令和5年度)が71件中、46件(約65%)となっている。なお、山中分署を含めるとそれぞれ77%、80%となる。</p> <p>これらの現状を踏まえ、山中温泉支所廃止、山中温泉文化会館機能停止後の小型除雪機の町内会などへの貸出し業務について、具体的にどのように調整するのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 荒 谷 啓 一

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
4	<p>山中温泉ゆけむり健康村について</p> <p>先般、菊の湯広場・山中温泉ししがしらんど開園式の後、4月開園予定の加賀依緑園の内覧会が開催された。株式会社リナシエンテを指定管理者として、北陸新幹線加賀温泉駅開業後のさらなる誘客効果に期待が高まった。</p> <p>一方、その株式会社リナシエンテとは、山中温泉ゆけむり健康村の再生に向け協議が進められてきているが、昨年9月定例会では、概算事業費の市の負担分と、施設は譲渡か売却かの2つの懸案事項の解決が大前提であり、予算編成時期を踏まえた11月頃をめどに方針を決定したいとのことであったが、12月定例会では、「現時点でまだ具体的にお示しできる段階には至っていない」との答弁であった。その後の進捗状況はどのようになっているのか。</p> <p>進んでいないとすればその理由は何か。</p>	
5	<p>都市計画道路・温泉中央南線（本町）について</p> <p>先の菊の湯広場の開園に合わせ、ゆげ街道の延伸として商店街のにぎわい創出を目的に、県事業として都市計画道路・温泉中央南線（本町）の街路修景整備事業が進められていたが、現在も未完成であり、一部は未舗装の状態である。</p> <p>地元では広場の隣接沿道部分は同時完成との認識であった。当該部分の完成予定と県への働きかけについて、所見を問う。</p>	
6	<p>大聖寺実業高校からの提案（防災対策）について</p> <p>若者の市政及び議会への関心度を高める取組の一環として先月、予定されていた市議会と大聖寺実業高校生との意見交換会は中止となったが、貴重な機会であり、予定されていた「加賀市民が幸せに生活するにはどうすればよいのか」をテーマに、加賀市の活性化、防災対策、福祉政策の3項目で計15の提案を提出していただいた。</p> <p>一連の防災対策として、「地震の断水対策として貯水タンクを増やす」「多言語ハザードマップをエリアメールで送信する」「道路寸断時にドローンで物資を届ける（平時は宅配サービスなどに転用することでドローン操縦人材を増やす）」という提案は分かりやすく現実性があると思われるが、所見を問う。</p>	